



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

～あけましておめでとうございます～

新しい年がはじまりました。昨年はお正月に石川県能登地方を震源とする大きな地震が発生し、大変な年明けとなってしまいました。今年は何事もなく心穏やかに過ごせるよう祈るばかりです。

少女雑誌の部屋では12月から引き続き企画展「少女雑誌の中の びっくり仰天展」を開催しております。2月未までゆっくりと展示しておりますのでどうぞご覧ください。本年もよろしくお願いいたします。

お正月のお楽しみ

かつてのお正月のふろくの定番といえば双六、かるた、カレンダー、日記帳など、ほとんどが紙もの製品でした。昭和の初め頃までの雑誌のふろくは、現在のように毎月付いたわけではなく、新年号にだけ付けられる特別なアイテムだったのです。当時、少女雑誌は高価だったため、自宅用として毎号買ってもらえるのは裕福な家庭の子女に限られていました。それでも、年に一回、お正月号だけは特別に買い与えられるという家庭もあったのだそうです。ふろくの中には、名だたる画家が手掛けたものだったり、箔押しが施されていたりと、紙製品でありながらクオリティが高く豪華なものもありました。少女たちにとって、それらはお正月の楽しみのひとつとなっていたことでしょう。

当館所蔵ふろくコレクションより ～紙ものふろく3品～

滑稽双六



卯の字冠りないないづくし (絵/鶴田吾郎)

『少女の友』 大正4年(1915)1月号ふろく

卯年にちなんで、全てのコマの文章が「う」から始まり「ない」で終わる双六。

「鰻(うなぎ)は ぬらくら つかまらない」

「うつした写真が 気に入らない」

「うかうか歩くと それあぶない」など

ユニークな描写が面白い。

小倉百人一首かるた (絵/村上三千穂)

『少女の友』 昭和9年(1934)1月号ふろく



かるた1枚のサイズは縦4cm、横3cmと小さいながらもクオリティの高い一品。

啄木かるた (絵/中原淳一)

『少女の友』 昭和14年(1939)1月号ふろく



石川啄木の短歌に中原淳一が絵をつけた抒情あふれるかるた。